

令和8年1月31日発行



社会福祉法人 泰仁会

特別養護老人ホーム「やさと」

石岡市小倉442-1

TEL (0299) 43-0811(代)

特別養護老人ホーム「桜の郷 元気」

東茨城郡茨城町桜の郷231-7

TEL (029) 292-3900(代)

さわらび

第87号



社会福祉法人 泰仁会 創立30周年!

泰仁会ホームページ

泰仁会

検索



泰仁会ホームページ



やさとブログ

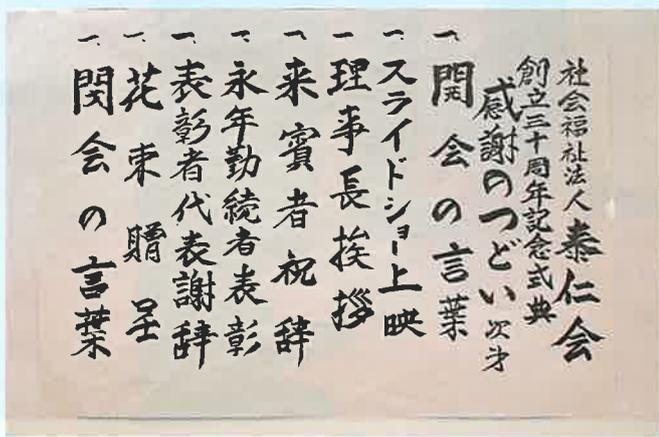
ダイバーシティ
推進企業



泰仁会は「いばらきダイバーシティスコア」を活用してD&I推進に取り組み、要件を満たす企業等「いばらきダイバーシティスコアチャレンジ企業」として登録しました。

登録の証としてデジタルバッジが付与されました。

社会福祉法人 泰仁会 創立30周年!感謝の集い



社会福祉法人泰仁会は平成7年10月1日より事業を開始し、創立30周年を記念して感謝のつどいを令和7年10月19日に執り行いました。

式典には、これまで泰仁会を支えてくださった多数のご来賓をお招きし、菊地理事長より感謝の言葉を申し上げます。

これからも江畑創業理事長の想いである「あつてよかった いてよかった」の実現に努めてまいりますので、これからもよろしくお願いいたします。



豪華なお料理もご用意しました！



泰仁会を支えてくださった皆様に
感謝申し上げます。



石岡第二高等学校
ブラスバンド部による演奏

地域と共に歩んだ三十年



社会福祉法人 泰仁会
業務執行 高城 裕

日頃より社会福祉法人泰仁会の活動に温かいご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。おかげさまで、令和七年十月一日をもって、当法人は創立三十周年を迎えることができました。地域の皆様、関係者の皆様、そして職員一人ひとりの支えがあつてこそ、この節目を迎えることができた深く感謝申し上げます。

十月十九日、特別養護老人ホームやさとにて創立三十周年記念式典を挙行いたしました。当日は、これまでお世話になつた方々、職員が一堂に会し和やかで温かい雰囲気の中で式典が進行しました。式典では、これまでの歩みを振り返る映像上映やご来賓の方々からのお祝いメッセージや永年勤続表彰もあり、改めて泰仁会が地域の方々と共に歩んできた三十年の歴史を実感することができました。式典の結びで、私は法人のこれまでの歩みと、今後の展望についてお話しさせて頂きました。泰仁会は創立以来、「施設が地域にあつてよかった」という理念のもと、地域の高齢者の皆様が安心して暮らせる生活環境の整備、全ての職員が働きやすい、働き続けられる職場作りを努めて参りました。やさと拠点においては、特別養護老人

会福祉法人 泰仁会 周年感謝の



ホームやささとをはじめ、シヨートステイやデイサービス、ケアハウス、居宅介護支援事業所、グループホーム、事業所内託児所、そして小規模多機能型居宅介護事業所など、多様なサービスを提供し、地域の皆様の暮らしを支えて参りました。この三十年を振り返ると、法人の成長は職員一人ひとりの努力と、地域の皆様からの温かいご支援に支えられていたことを改めて感じます。今後も私たちは、より質の高い介護サービスの提供を目指すとともに、地域の方々とのつながりを大切にしていまいります。地域の皆様が安心して暮らせることはもちろんのこと生きがいを持ち、笑顔で過ごせる地域づくりに取り組みで参ります。三十年という節目を迎えた今、私たちはこれまでの歴史を胸に、未来に向けた挑戦を続ける決意です。「あつてよかった、いてよかった」を大切に、地域の皆様に寄り添い、心温まる介護サービスを提供して参ります。これからも皆様と共に歩む法人であり続けるため、職員一同、力を尽くしてまいりますので、どうぞ今後とも変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

お正月のひととき

新しい年が明け、新年の恒例行事として、元旦に近隣の神社へ初詣に出かけました。

当日は天候にも恵まれ、皆さまそれぞれに一年の健康と幸せを願いました。

特養やさとでは3グループ合同で新年会を開き、ビンゴ大会が行われ大いに盛り上がりました。

今年も皆さまが健やかに過ごせますよう、職員一同支援してまいります。



デイサービスのお正月



特養ユニット鏡開き



桜の郷元気のお正月

今年は午年ということもあり、「必ずウマくいく」ことを願って、たくさん行事を行い、ご利用者の笑顔を拝見することができました。

本年が皆さまにとって、希望に満ちた実り多い一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。



認知症への理解を深めて

桜の郷元気 生活支援課 主任 田中 栄江

桜の郷元気では、令和8年に入り、今年も地域の皆様に支えられながら入居者様の支援を行っています。地域の皆様への恩返しができないかと考え、地域の皆様に向けて介護の勉強会を行っています。

今回の介護教室は第四回目になりました。前回の三回目は「認知症と物忘れについて」でしたが、今回「認知症と予防」をテーマに開催しました。沢山の方が参加され、認知症への関心の高い方が多いと感じました。

前回の介護教室を通じて、もっと学びを深めて、さらによりケアを行うていきたいと考え、上司へ要望し、認知症介助実践者研修に参加しました。認知症介助実践者研修は認知症介護について理解を深めたい、技術を磨きたいという職員を対象に開催している研修です。

この研修に参加して、認知症の症状への理解が深まり、また、利用者様の生活歴や性格など様々な情報から認知症の症状との関係や認知症の行動の背景には、生い立ちから今までの生活・性格からくる行動なども見えるようになり、全て認知症の症状であると思っていたことが違うものだと感じるようになりました。

入居者様が困っている時にはすぐ「どうしました？」と声をかけ、その時の入居者様の思いをさらに聴くようになり、普段過ごしている様子や話をしている時など表情や仕草なども良く観察し、目の前の入居者様をもっと知りたいという想

いが強くなったと感じました。それも研修の成果だと思っています。



認知症の早期発見が重要な理由は、認知症の症状が軽いうちに発見できれば、本人の希望を尊重して介護の準備をすることが出来ます。また、早い段階であればより選択肢を増やせることもメリットであり、これらのサービスを利用することは、家族の負担を減らすことにもつながります。

家族が認知症の方と接する際にも同じ行動をとったり、同じ話を繰り返しされると、「なんで何回もするの？」と。感情的になってしまうこともあるかもしれません。認知症の方は否定をされるとより不安を感じ、症状がより出てしまう事もあるので、否定はせず、よく話を傾聴

することが良いと思います。

今後も介護の専門職として利用者様と向き合い、入居者様を知る機会を増やしていくためにはコミュニケーションを取る事が一番だと考えています。本人にとって望ましい生活とは何かを本人の視点で考えて、認知症からくる問題だと感じる行動も、背景になぜ起こるのか、何を感じ、何を考えて行動しているのかを探るようにして、その人らしさを大切に支援していきます。

今回の介護教室に参加された方のほとんどは認知症に興味があった方が多く、「勉強になった」「もっと学びたい」とお声を頂けて、大変励みになり、私のやりがいにもつながっています。



心機一転

特別養護老人ホーム 桜の郷元気
生活相談員 平賀 千貴

これまで介護福祉士として十七年間、二つの施設で経験し、さまざまな利用者やご家族、職員の方々と関わり援助してきました。それぞれの現場で学んだことは、介護の技術もそうですが、それだけではなく「人をよく見ること」「思いをくみ取ること」がなにより大切だとすく感じています。そうした経験を重ねた上で、ご縁があり、「桜の郷元気」に就職させていただきました。

私の長所は、日々の小さな変化に気づく観察力と、相手の立場に立つて寄り添うことができるコミュニケーション能力です。その強みを生かし、信頼関係を大切にしながら支援を行ってきました。今後は生活相談員としての役割を担い、専門性を高めることでより質の高い支援ができるようにキャリアアップを目指していきたく考えています。これまで培ってきた経験を生かして、利用者やご家族はもちろん職員の皆さん、そして「桜の郷元気」全体に貢献できるように、日々前向きに努

力を重ねてまいります。

現場での対話を通じて一人ひとりの声に耳を傾け、安心して生活が出来る環境づくりに力を注いでいきたいと考えております。また、常に学ぶ姿勢を忘れずに、地域に信頼される施設づくりが出来るよう努めてまいります。

生活相談員として、これから皆様とたくさん関わりが増えるかと思えます。どのような些細な事でも良いので、遠慮なさらずにお声を掛けていただければと思います。これからよろしくお願いいたします。



作業療法士としての抱負

特別養護老人ホーム 桜の郷元気
作業療法士 鈴木 奈緒

大学を卒業し、作業療法士として4年を過ぎた今、ご縁があり桜の郷元気で月2回勤務させていただくことになりました。

これまで急性期病棟や精神疾患の方などを担当し、経験の中で判断や関わり方に悩み葛藤を抱える場面もありました。

そのような中でも自分らしさを見失うことなく、また画一的な支援に流されず患者さん一人ひとりの想いや生活習慣に寄り添える作業療法士であり続けたいと強く思ってきました。

認知症になると様々な記憶が失われていきますが、最後まで残る機能は感情であると言われる。入居者様が自分らしく、安心感や楽しさといった前向きな感情を多く感じながら生活できるよう支援させていただきます。

作業療法士の本質である「その人らしい生活の再構築」を大切にしながら施設の多職種と連携し、日々精進し今後尽力させていただきたいと

思っています。

年々高齢者人口が増加する一方で医療従事者の不足が深刻化しており、一人あたりの求められる対応力や専門性、時間配分の質がこれまでに以上に問われてきます。

限られた時間の中で最大限の効果を引き出せるよう自己研鑽に励み、よりよいリハビリテーションを提供できるよう努めていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いたします。



令和6年度決算報告

貸借対照表

令和7年3月31日現在

資産の部		負債の部	
流動資産	326,855,727	流動負債	281,173,539
固定資産	2,155,513,882	固定負債	601,493,530
		負債の部合計	883,117,069
		純資産の部	
		基金	162,034,792
		国庫補助金等特別積立金	373,605,054
		その他の積立金	0
		次期繰越活動収支差額	1,061,612,694
		(うち登記活動増減差額)	-70,483,658
		純資産の部合計	1,599,252,540
資産の部合計	2,482,369,609	負債及び純資産の部合計	2,482,369,609

事業活動計算書

(自) 令和6年4月1日 (至) 令和7年3月31日

勘定科目	決算額
サービス活動収益	1,380,360,751
サービス活動費用	1,447,413,190
サービス活動増減差額	-67,052,439
サービス活動外収益	7,411,052
サービス活動外費用	10,081,975
サービス活動外増減差額	-2,670,923
経常増減差額	-69,723,362
特別収益	0
特別費用	760,296
特別増減差額	-760,296
当期活動増減差額	-70,483,658
前期繰越活動増減差額	1,132,096,352
当期末繰越活動増減差額	1,061,612,694
その他積立金取崩額	0
その他積立金積立額	0
次期繰越活動増減差額	1,061,612,694

資金収支計算書

(自) 令和6年4月1日 (至) 令和7年3月31日

勘定科目	決算額
事業活動収入	1,387,771,803
事業活動支出	1,351,519,544
事業活動資金収支差額	36,252,259
施設整備等収入	0
施設整備等支出	50,742,789
施設整備等資金収支差額	-50,742,789
その他の活動収入	16,260,757
その他の活動支出	39,354,024
その他の活動資金収支差額	-23,093,267
予備費	0
当期資金収支差額合計	-37,583,806

前期末支払資金残高	140,368,654
当期末支払資金残高	102,784,848

令和6年度事業報告

◇利用状況 やさと

特別養護老人ホームやさと	28,127人	
ショートステイやさと	5,348人	
デイサービスやさと	8,370人	
デイサービスやさと(総合事業)	907人	
ケアプランセンターやさと	1,441件	
ケアハウスやさと(毎月1日時点)	180人	
在宅介護支援センターやさと	相談件数	260件
	実態把握	153人
	生活機能評価	150人
	介護予防教室参加者累計	930人
グループホーム さわらび	6,321人	
国府あおい	宿泊	3,220人
	通所	2,151人
	訪問	4,079人

桜の郷 元気

特別養護老人ホーム桜の郷 元気	24,284人	
ショートステイ桜の郷 元気	3,732人	
デイサービス桜の郷 元気	7,922人	
デイサービス桜の郷 元気(総合事業)	468人	
ケアプランセンター桜の郷 元気	1,202件	
シルバーハウジング	安否確認	12,449件
	関連機関連絡	17件
	相談件数	18件
	緊急時対応	4人
	ショートステイ	6,141人
桜の郷 元気ひたちの長岡	デイサービス	5,974人
	総合事業	856人

◇リスクマネジメントの取り組み状況

	やさと	桜の郷 元気
事故報告件数	278件	144件
ヒヤリハット報告件数	2,413件	1,280件
ご意見・苦情件数	6件	4件
やむを得ない身体拘束件数	1件	0件

令和8年1月17日、菊地丈夫理事長はご逝去されました。菊地丈夫理事長は、創業理事長であった、故江畑隆夫先生と共に、泰仁会を創立され、法人運営の傍らで、初代の特別養護老人ホームやさと施設長としても、法人理念の「あつてよかった・いてよかった」を大切に、地域社会の福祉向上に、尽力してまいりました。また、働く職員を大切に、常に温かい言葉かけをして下さり、私を始め多くの職員が「人としてみんなが成長することができました。介護業界全般や働く職員の将来を常に考えており、介護事業の先駆者でもありました。その志と歩みは、現在の法人運営の礎となっており、私たちは、その意思をしつかりと受け継ぎ、今後より一層、地域福祉の向上に努めてまいります。生前のご功績に深く敬意を表し、ここに心より哀悼の意を表します。菊地理事長の功績や新体制については、次号「さわらび」にてご報告させていただきます。

(永山直人)

令和8年1月17日、菊地丈夫理事長はご逝去されました。菊地丈夫理事長は、創業理事長であった、故江畑隆夫先生と共に、泰仁会を創立され、法人運営の傍らで、初代の特別養護老人ホームやさと施設長としても、法人理念の「あつてよかった・いてよかった」を大切に、地域社会の福祉向上に、尽力してまいりました。また、働く職員を大切に、常に温かい言葉かけをして下さり、私を始め多くの職員が「人としてみんなが成長することができました。介護業界全般や働く職員の将来を常に考えており、介護事業の先駆者でもありました。その志と歩みは、現在の法人運営の礎となっており、私たちは、その意思をしつかりと受け継ぎ、今後より一層、地域福祉の向上に努めてまいります。生前のご功績に深く敬意を表し、ここに心より哀悼の意を表します。菊地理事長の功績や新体制については、次号「さわらび」にてご報告させていただきます。

(永山直人)